

# 豊栄病院 ニュース

# 令和5年7月号

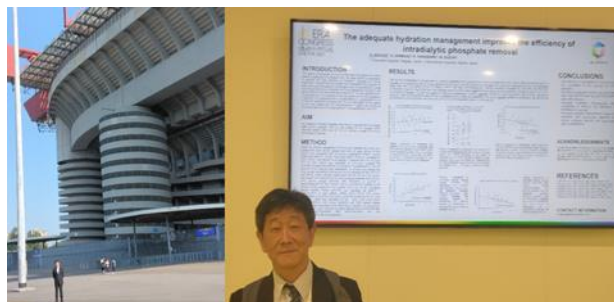
病院の入院病棟には、それぞれが担う役割があります。当院は、この春に病棟改修なども行い、6月から199の入院病棟・病床を以下のようにしました。3階北病棟59床・地域包括病床、3南病棟42床・地域包括病床、4階北病棟48床・10:1急性期病床、4階南病棟50床・障害者病棟。おおむね地域包括病棟は亜急性期の、急性期病棟は急性期の、障害者病棟は慢性期の医療を行います。今回、この障害者病棟の紹介を行いたいと思います。



さて障害者病棟の主なる対象患者さんは、重度肢体不自由者(脳卒中後遺症、認知症を除く)、重度意識障害者、神経難病患者などで、こうした患者さんを一定以上入院いただく必要のある慢性期病棟です。類似の機能を持った病棟で療養病棟がありますが、大きな違いは投薬や医療処置が包括とならず出来高算定できることです。高額薬剤を使用していたり、食事が摂取できず点滴をしている患者さん等の入院も可能です。当然のことながら、種々の検査やリハビリテーションなども実施します。

4南病棟師長より; 私たち病棟看護師は、長期にわたる入院が必要な患者様がその人らしく快適に療養生活が送れるよう環境を整えるとともに、患者様のADLや排泄、認知状態などを含めてその方々に適切な治療およびケアを医療チームで連携をとり提供させていただいております。一方、患者様・ご家族様のご意向を確認し、多職種

のスタッフの方々と情報を共有し、患者様がより良い状態で次の生活の場に退院できるよう支援も行っています。今後も患者様への最適な治療およびケアの提供に努めたいと考えています。



当院の菊池博内科部長が、ミラノで開催された第61回欧州腎透析移植学会でポスター発表されましたので、寄稿いただきました。

“生物の生存に必須な物質「リン」は、飽食の現代では過剰摂取により生体毒と認識されています。唯一の排泄臓器である腎臓の機能を失った透析患者では、リン過剰の克服が生命予後改善の一つの大きなテーマです。私は「血液透析でのリン除去」に関して十数年来臨床研究を行っています。今回、血液透析患者の体液管理とリン除去効率についての新たな知見を、ミラノで開催された第61回欧州腎透析移植学会で発表しました。早朝、会場近くのイタリアサッカーの聖地「サン・シーロ」を訪れ、巨大なスタジアムをバックに記念撮影をしました(上写真、左)。そのため、下見を予定していた午前のセッションに間に合わず、ぶっつけ本番になりました。ちっとも分からない英語を、精一杯分かったふりをして、何となく終了。スライド(e-poster)には新潟県厚生連のロゴマークを入れ、力の限り宣伝しました(上写真右;ロゴマークは写真右上に写っています)。ミラノで「必見」とされるダビンチ作「最後の晩餐」は、予約がとれず断念。それでも1日中主要な観光地をぶらぶらし、歩数計は4万歩を超えシーズンベストを打ち立てました。”

発行責任者・文責; 豊栄病院病院長 宮島 透

豊栄病院 (代表)

TEL 025-386-2311

FAX 025-386-2370

豊栄病院 患者総合支援センター

TEL 025-386-2801 (直通)、FAX 025-386-2784